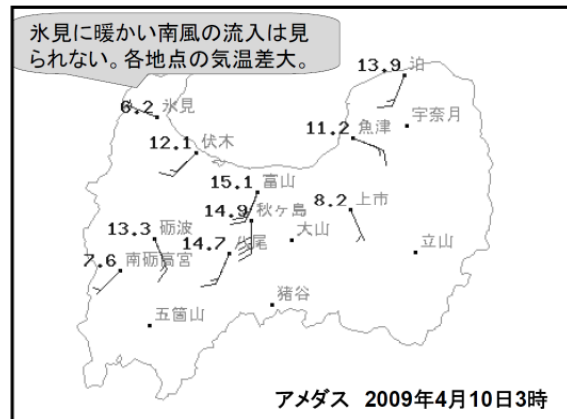
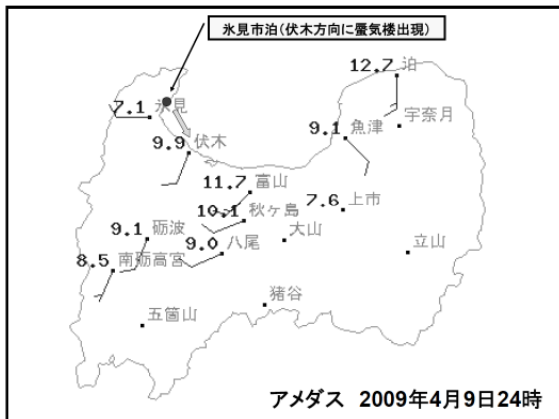
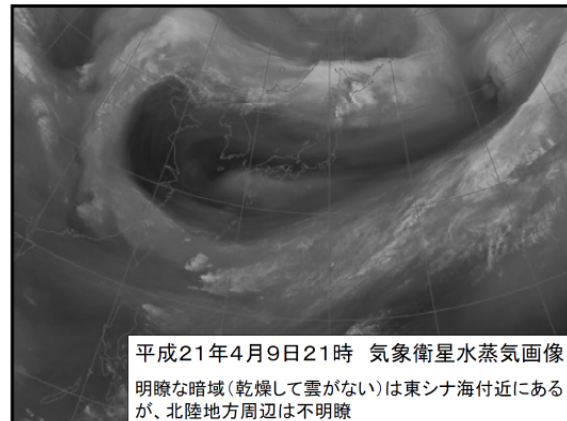
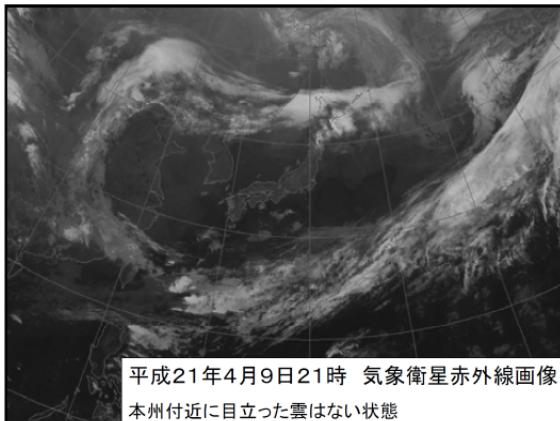
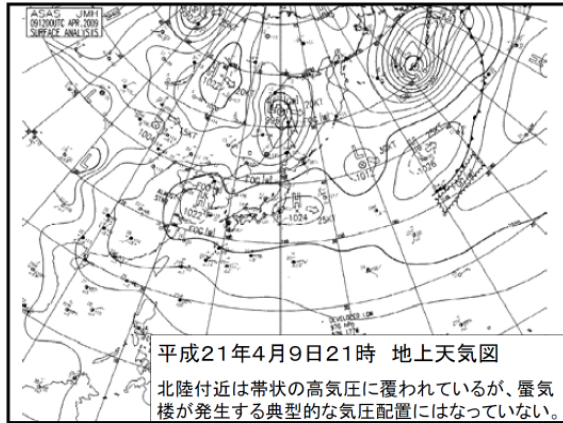


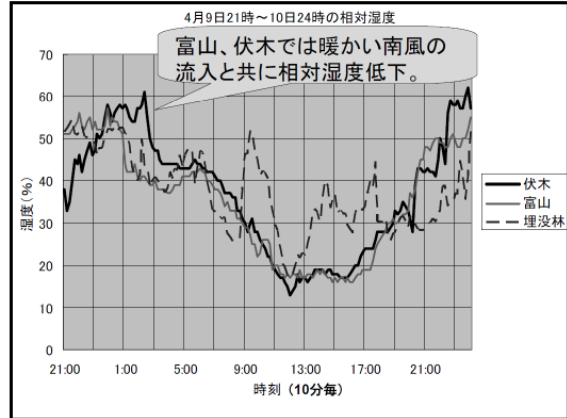
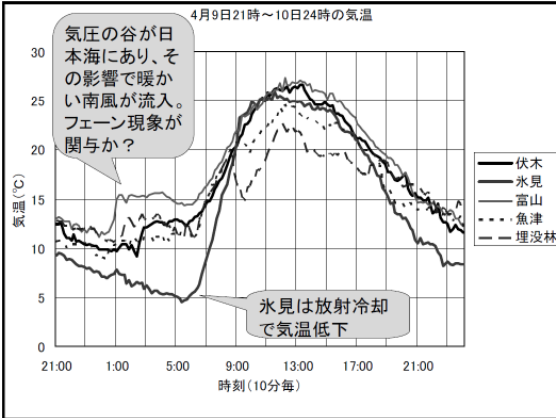
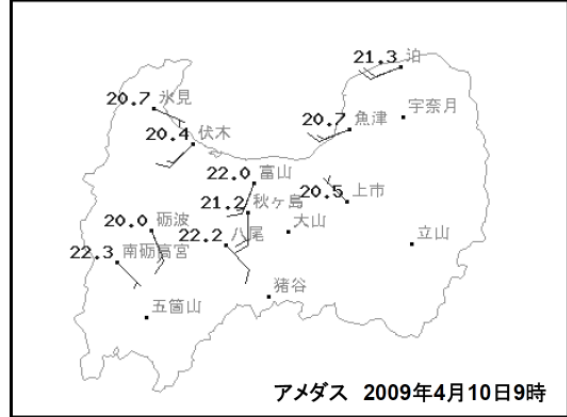
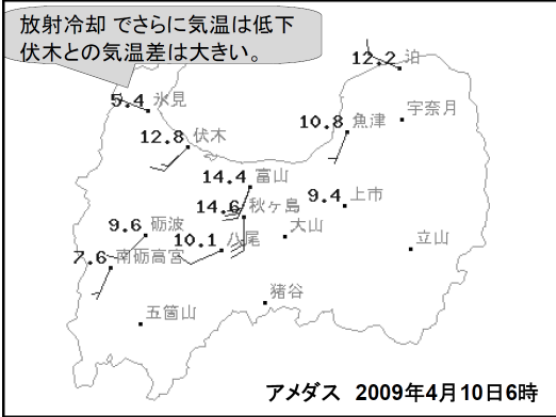
## 氷見市泊から見た蜃気楼について（速報）

魚津蜃気楼研究会 藤田 一

### 要旨

- 北日本新聞4月11日朝刊によれば4月10日午前6時45分頃から約20分間、氷見 市泊の海岸から高岡市伏木港方向に蜃気楼が発生していた。建造物が普段より伸び上がって見えた(高岡市在住の写真愛好家)と報道された。同日、10時頃から約30分間、魚津市の海岸でも蜃気楼が観測された(富山市方向、ランクE)。
- 当時の気象状況を調査したところ、10日未明から吹き始めた暖かい南よりの風が今回の発生に関係していることが分かってきた。





まとめ

- ・気圧配置は魚津周辺で曇気楼発生する典型的な気圧配置ではなかった。
- ・日本海にある気圧の谷の影響で暖かい南よりの風が県内に流入したが、氷見には流入せず、放射冷却により気温が低下。伏木など夜間に気温が上昇した地点では、相対湿度の変化からフェーンの可能性がある。
- ・フェーンの影響で、富山県西部の海岸付近に上暖下冷の層が形成されていた可能性がある。氷見の冷気層は日の出による昇温と対流混合により上暖下冷の層は解消し、同時に曇気楼も消滅。
- ・曇気楼はもっと前の時刻から見えていたのか？

利用データ

- ・魚津埋没林博物館気象データ  
<http://www.city.uozu.toyama.jp/cgi-bin/weather.pl>
- ・気象庁HP 気象統計情報  
<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>

etc